

インターバンクの声（2017年4月21日）

昨晚、東京市場が引けた後のドル円は、ニューヨーク市場が始まる頃まで数時間にわたり109円台を維持する状態が続いた。依然として円買い・ドル売りが優勢と考えている市場参加者が多いが、実際にドルを売り持ちにした参加者にしてみれば、109円をなかなか割ってくれない相場に痺れを切らし始めていたところへニューヨーク勢の初動がドル買いとなり、早めにポジションを整理しなければならない参加者によるストップが入ってしまった。

このドル買いの後はあっという間に元の水準に戻ってしまったが、それでも109円が底堅かった。昨晚に関してはこの時点で108円台への再突入をあきらめてしまった格好だ。

確かに米長期金利も上昇し始め、黒田日銀総裁がインタビューで緩和的政策を続けると発言したことが伝わるなどの材料はあったが、いずれも下値を支えるほどの材料ではなかったはず。3月の米景気先行指数が予想を上回ったことが要因との声もあったが、先月の数字からは低下しており、これまた大したドル買い材料ではない。ムニューシン米財務長官が近く大型の税制改革を提示すると発言したようだが、どの位近い時期なのか当てにならない。もう少しドルが上昇すればドルを売りたい人も増えそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。